紀州に永住することを決めた徐福はこの３軒に焼き物の製法を教えました。今も「釜所」という地名が残っています。 また，製鉄などの技術や農耕・土木・捕鯨・医薬なども伝えたとされまする。徐福が残したと伝えられる御神宝の「摺鉢」や，秦代の半両銭などが出土し保管されています。

徐福宮

丸山は矢賀の蓬莱山とよばれており，祠の背部に徐福の墓の石碑が立ちます。しかし，ここに石碑があってもここれが徐福の墓とは言い難いように思います。

やはり，話を続かせるためにはこの墓は徐福のではありません。

徐福之墓

③-9 丹後半島　京都府伊根町

日本海を対馬海流にのって北上した徐福の船は丹後半島にたどり着きました。日本三景の一つ「天橋立」の近く，「舟屋」で有名な京都府与謝郡伊根町に徐福にかかわる伝説が残っています。

海上に浮かんでいるように見える冠島。常世島(とこよしま)とも呼ばれており，ここに生える黒茎の蓬(くろくきのよもぎ)や九節の菖蒲（しょうぶ）が徐福の求めた不老不死の仙薬と言われています。冠島は「天火明命」（あめのほあかりのみこと）の降臨地といわれており，「天火明命」は宮津市にあり伊勢神宮の元になったとされている元伊勢籠（この）神社の祭神ともなっています。徐福の一行はこの島で仙薬を見つけ，丹後半島へ上陸したようです。

冠島